

未来を担う将来の技術者たち

～名古屋大学の学生43名が名古屋港を現場で体感～

名古屋大学工学部環境土木・建築学科環境土木工学コースの3年生が、講義だけでは学べない実際の現場を体感するため、10月22日(水)に名古屋港を訪れた。

今回の企画は、名古屋大学の要請を受け、国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所と名古屋港管理組合が連携して行ったもので、同大学の学生43名が参加した。学生は、名古屋港管理組合が所有する船舶「ぽーとおぶなごや2」に乗船し、名古屋港湾事務所の職員から名古屋港の役割や、高潮防波堤などを間近に見ながら説明を受けた。現在、高潮防波堤では、今後発生する最大クラスの地震・津波に対しても粘り強く効果を発揮するための改修工事を行っている。

参加した学生からは、「スケールの大きな構造物を見学することができた。」、「授業では経験することの出来ない体験をすることが出来て良かった。」などの感想が聞かれた

現在、建設業の人材不足が問題となっている中、少子高齢化による就業者数の減少、さらには、東日本大震災関連の公共復興事業などにより、ますます人手不足感が強まっている。この企画は、技術者を目指す学生にとって、志を高める良い機会となったのではないだろうか？





●配布先 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムス、日本海事新聞、海事プレス

●問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所 企画調整課 板生

Tel 052-651-6763 Fax 052-652-0303